

【出題意図】

文章を正しく理解した上で、具体例と関連付け、自分の考えを論理的にかつわかりやすく記述することができるかを問う。

問1

論破が対話を否定することについて、所定の字数内で過不足なく説明できるかどうかを問う。論破が相手を打ち負かすことを目的とし、相手の経験の厚みや個別の状況に対する配慮を捨象した行為であり、そもそも対話になりえないことについて、課題文の内容に基づき適切に説明する必要がある。

問2

数値データをもとにしたエビデンス重視の現代社会の傾向について、個人の経験の厚みとその重層性、蓄積された経験に基づく逡巡等の軽視といった風潮、それによる判断の危うさといった問題点を踏まえつつ、自身の思考を展開できるかを問う。挙げる例については問わない。情報ソースの多様化に伴い、数値データとそれによるエビデンスがより重要になることに加え、そのみによる判断の危うさについて、多面的な視点に基づくバランスの取れた考察を求めたい。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する。

- ①課題文について正しく読み取れているか（文章読解力）。
- ②設問に的確に対応した解答をしているか（問題把握力）。
- ③自己の考えを論理的に構築できているか（論理構築力）。
- ④適切かつわかりやすく表現できているか（文章表現力）。